

共同研究会の開催計画書（合同開催）

1. プロジェクト名

日本語レキシコンの音韻特性（略称：語彙の音韻特性）

日本語レキシコン－連濁事典の編纂（略称：連濁事典）

2. リーダー名

窪菌晴夫（理論・構造研究系）

ティモシー・バンス（理論・構造研究系）

3. 開催期日

平成23年10月1日（土曜日）、 13時00分～17時30分

平成23年10月2日（日曜日）、 9時30分～12時30分

4. 開催場所

国立国語研究所2階多目的室（東京都立川市緑町10-2）

5. 発表者氏名・発表演題・要旨

-10月1日（土）

① 鈴木 豊（文京学院大学）

「4拍語を後部成素とする複合語の連濁」

4拍以上の多拍語を後部成素とする複合語には例外的に連濁形する語が存在する。これらの連濁語をできるかぎり網羅し、語種・品詞等によって分類して、連濁形となる理由について考察する。

② 平野尊識（山口大学）

「連濁と非連濁に関わる要因」

平野(1974)では、連濁の起源に関して、連濁素(*N)を想定する必要性を指摘した。また、Hirano(2000)では、ラ行音の後では連濁が起こりにくいことを提案した。この発表では、内的再建から、連濁と非連濁に関わるこの二つの要因について考察する。

③ Mutsuko Ihara (St. Marianna University School of Medicine), Katsuo Tamaoka (Nagoya University), Hunjung Lim (Yamaguchi Prefectural University)

"Rendaku and markedness: Phonetic and phonological effects "

本発表では、(1)連濁前部要素音の連濁生起率に及ぼす影響 (2)連濁子音の連濁生

起率の差異 (3)連濁子音後続母音の連濁生起率に及ぼす影響について、無意味語による実験を報告し、その分析結果を有標性の観点から考察する。

- 10月2日 (日)

- ① 佐藤裕 (理化学研究所 BSI 言語発達研究チーム)・加藤真帆子 (理化学研究所 BSI 言語発達研究チーム)・馬塚れい子 (理化学研究所 BSI 言語発達研究チーム/Duke University)

「日本人乳児における促音知覚の発達的变化」

本研究では、日本人乳児における促音と非促音の弁別能力の発達的变化を調べた。その結果、生後 9.5 ヶ月までに弁別が可能となることが示された。また、9.5-11.5 ヶ月児において、促音を形成する無音区間の長さ以外の手がかりが弁別に影響することが明らかになった。

- ② 中西裕樹 (同志社大学)

「老借詞調類一致之謎」と中国南方少数民族言語の tonogenesis」

中国南方少数民族言語における「老借詞調類一致之謎」とは、陳其光 (1991) で提出された問題である。本発表では、南方諸言語の声調が漢語からの借用語に誘発されて発生したと仮定することによって、この問題解決への糸口を探る。